

[011] 文獻探究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10120>

出版情報 : 文獻探究. 11, 1983-03-15. 文獻探究の会
バージョン :
権利関係 :

一般に行なわれていた表記のあり方を知る上で、重要な手がかりを提供するものと思われまます。

第二には、右の研究の成果を御伽草子やそのものの研究に活用したいと考えております。

周知の如く、御伽草子は、奥書き等を持たないのが通例であることや、中世から近世まで製作様式に大きな変化を来さぬまま作り続けられたこと等から、書誌学的・美術史的に製作年代を判定することの困難なものとして、問題とされて来ました。

しかし、或る程度新古の関係を判断し得るものについて、表記実態を国語学的に検討してみると、八行転呼音の表記等一部の事象については製作年代の推移に見合う明らか相違が認められ、「慎重に研究を進めれば、これを製作年代判定のカギとなし得る」との期待が持たれます。

御尋ねの方々は、この辺りを明確にせよと示唆して下さいましたものと存じます。他にもいくつか、副次的な目標とするところがあります。それについては、おいおい、論考を進める中で触れて行きたいと

思っております。御叱正のほど、お願い申し上げます。

（なお、これ以外に、ハあのような一覧表を掲げるのは何故か？Vといった御尋ねも頂きましたが、それは、「擬似自然科学的性格を持つ国語学のことゆえ、自然科学と同様に、道を開いておいても良い」と考えるからで、他意は有りません。）

会 員	名	簿
安部 美 絵	飯 倉 洋	一 合 子
稲川 順 一	大 橋 百	卓 雄
小野 望 子	柏 原 正	一 文
上村 郎 子	辛 島 保	啓 康
木部 暢 子	久 保 藤	村 弘
國生 雅 至	後 崎 園	田 豊
坂口 良 夫	園 高 田	一 二 子
白石 瀬 正	山 橋 坂	潤 豊
高山 倫 明	伊 佐 山	田 原
高田 坂 順	(田 性 田 中) 中	田 俊
張 村 萬	中 橋 花	井 本
中野 口 義	福 松 矢	野 彦
花田 富 二		常 津
古田 雅 正		
望月 景 浩		